

## 持続的成長を支える経営基盤



事業活動におけるサステナビリティ  
人に関するサステナビリティ  
社会貢献活動  
サステナビリティデータ  
マネジメント体制  
コーポレートガバナンス  
コンプライアンス・リスク管理

# 事業活動におけるサステナビリティ

サニックスグループは、事業活動によるお客様への価値提供を通じて社会課題の解決を図ることを価値創造モデルとしており、このビジネスモデルによって、「次世代へ快適な環境を」という企業理念を実現してまいります。

## ■数字で見るサニックスグループ

(2024年3月末現在)



シロアリ消毒施工軒数

約 **835,000** 軒



給排水管維持管理施工件数  
(防錆機器設置等)

約 **39,000** 件



太陽光発電販売・施工件数(自社施工分)

約 **50,000** 件

(うち住宅用約20,000件)

容量で約1.4GW(原発1基分相当)



ペストコントロール施工軒数  
(事業所向け害虫・害獣防除)

約 **34,000** 軒



廃液処理量

約 **2,600,000** トン



資源循環型発電

プラスチック処理量

約 **6,200,000** トン

苫小牧発電所 発電量

約 **5,300,000** MWh



ユース世代のスポーツイベント歴代参加者数  
(ラグビー・サッカー・ハンドボール・新体操・柔道)

**43** カ国・地域から約 **55,000** 人

## ■有事における社会貢献活動

自然災害に代表されるような災害、事故の発生時には、サニックスグループのノウハウ・知見を活かした活動により、地域・社会に貢献しています(以下は、その一例です)。

1982年7月(昭和57年)	長崎大水害	浸水家屋、ゴミ捨て場のゴミの防疫消毒実施
1993年8月(平成5年)	鹿児島大水害	家屋および周辺の防疫消毒実施
1995年1月(平成7年)	阪神大震災	避難所、トイレ等の防疫消毒実施(下記写真①)
1997年1月(平成9年)	ナホトカ号重油流出事故	回収された重油、約1万トンの処理を実施(下記写真②)
2010年(平成22年)	口蹄疫の流行	感染拡大防止のため通行車両消毒の実施(下記写真③)
2011年(平成23年)	東日本大震災	盛岡市被災地支援施設建設プロジェクトにて、大槌町集会所に太陽光発電システム提供(下記写真④)
2014年～(平成26年)	デング熱国内感染発生	デング熱の国内発生を受け、2016年より野外コンサート会場の蚊対策を毎年実施
2017年～(平成29年)	ヒアリの国内発生	2017年以降国内でのヒアリ確認情報が相次ぐ福岡の港湾物流倉庫にてヒアリ生息調査実施
2017年(平成29年)	九州北部豪雨	被災地住宅の床下泥土除去・清掃・消毒等の復旧支援活動を実施(下記写真⑤)
2020年(令和2年)	新型コロナウイルス	新型コロナウイルス感染者発生施設における消毒実施
2020年(令和2年)	令和2年7月豪雨	豪雨被害を受けた小学校(大分県九重町)の復旧工事(2021年1月～3月)において、校舎および体育館の床下殺菌消毒を実施(下記写真⑥)
2021年(令和3年)	令和3年8月豪雨	佐賀県武雄市の災害ボランティアに、当社武雄工場の社員が参加



阪神大震災時、防疫ボランティアを申請し、西宮市で避難所の防疫消毒を実施(1995年)。



ナホトカ号重油流出事故による重油処理に対し、海上保安庁より感謝状授与(1998年)。



宮崎県都農町にて、通過車両等の殺菌施工を実施(2010年)。



岩手県盛岡市被災地支援施設建設プロジェクトに協賛し、大槌町の集会所に太陽光発電を提供(2011年)。



福岡県東峰村において、浸水住宅の床下泥土除去・防疫消毒等、復旧支援を実施(2017年)。



大分県九重町にて豪雨災害を受けた小学校の床下殺菌消毒を実施(2021年)。

## ■環境大臣より感謝状授与

「長年にわたり、衛生管理や産業廃棄物のリサイクル、再生可能エネルギーの取り組み、次世代へ快適な環境を継承することに貢献してきた」として、2019年(令和元年)9月、環境大臣より感謝状を頂戴しました。



原田環境大臣(当時)



# 人に関するサステナビリティ(教育)

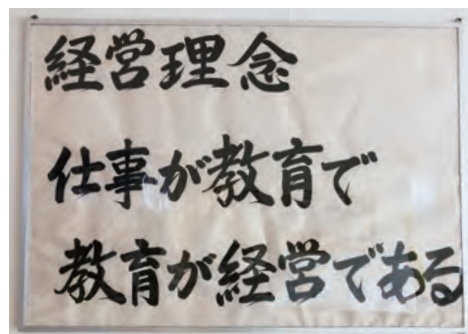
「人が品質」の実現へ。

## 経営理念「仕事が教育で教育が経営である」

サニックスグループは、「仕事が教育で教育が経営である」を経営理念とし、経営戦略の中でも、特に「人づくり」を重点課題の一つとして位置づけています。

創業当初より、「仕事に対する使命感や意欲、豊富な専門知識が不可欠」という考えのもと、社員教育に徹してきました。これは、提供するサービスが、衛生管理や廃棄物リサイクル、エネルギーといった目に見えないものであり、従事する従業員の質がサービスの質に直結するとの考えに基づくものです。

教育専門の部署(人財開発部)および、自社の研修センターを設け、「お客様にご満足のいくサービスを提供し、次世代の快適な環境づくりに貢献できる人財の育成」に努めています。



### 「サニックス総合研修センター」(福岡県宗像市)



自社研修施設「総合研修センター」を有しています。コロナ禍においては、細心の感染防止策を講じての少人数制および、当センターを拠点に各地をオンラインで結んでの研修としています。2021年度～2023年度の3年間で、延べ1,845名の従業員が研修を受けました(計114回の研修)\*。

なお、社内研修期間以外には、外部への貸出も行っており、地域の少年ラグビーチームの合宿や企業研修の施設としても、活用いただいています。

\*社内にて実施された全研修の累計受講者数。

### ■社内教育体系図

種別	研修名	対象者					強化スキル		
		部長	次長 課長	次世代 リーダー (副主任 ~係長)	若手 社員 (2~3年目)	新入 社員	テクニ カル スキル	ヒュー マン スキル	コンセ プチュ アル スキル
階層別研修	部長研修	○						○	○
	次長・課長 研修		○					○	○
	所長・工場長 研修		○					○	○
	次世代リーダー 研修			○			○	○	
新人研修	新入社員導入 研修					○	○	○	
	新卒フォロー 研修				○	○	○	○	
事業別研修	HSスタート 研修					○	○	○	
	HS実務強化 研修				○	○	○	○	
定着・育成	メンター研修 (制度)				○	○	○	○	
その他	実務相談 (フォロー面談)					○			
	eラーニングに よる専門知識	○	○	○	○	○	○		



年間で200名以上が受講する新入社員向けの導入研修。サニックス社員として自立するため、理念・ビジョンの浸透だけでなく、「社会人基礎力」も磨く。なお、新規学卒入社者に対しては、合計3回のフォロー研修を実施。



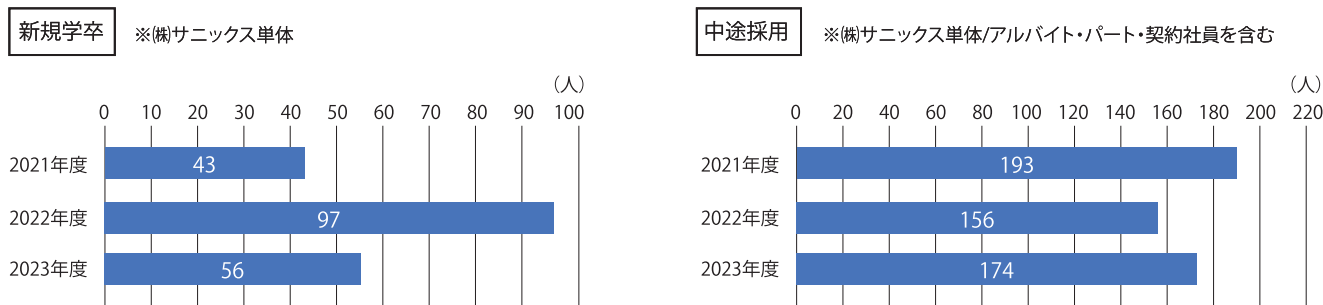
就業から数カ月後に、職種ごとのフォロー研修を実施。この間で生じた問題点や改善点を確認するとともに、新たな目標設定を行う。

# 人に関するサステナビリティ(雇用)

専門家集団を支える雇用体制

## 企業活動の全ては人財にあり。未来を担う人財を創出する。

### 採用状況(入社数の推移)



### 多様な雇用サポート体制

#### ▶メンター制度によるサポート

新規学卒の新入社員には、それぞれメンター(支援者)を付帯します。実務教育係ではなく、メンティー(新入社員)の心情や悩みなどに対して正面から向き合う心強い存在です。また、コミュニケーション促進のため、定期的なサポート面談を実施し、従業員との交流を促進する仕組みも整えています。



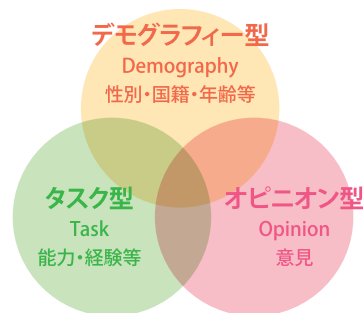
#### ▶定年選択制によるライフプラン形成

「人生100年時代」と言われる中、60歳または65歳の定年選択制を導入しています。定年後の雇用についても、60~65歳の嘱託社員雇用、65歳以降の契約社員雇用など、従業員のキャリアやライフプランの形成に柔軟に対応しています。

### 社内におけるダイバーシティの推進

本来、ダイバーシティは、デモグラフィ型・タスク型・オピニオン型が三位一体であるのが本質ですが、一般的には、デモグラフィ型のみが先行しがちな側面があります。

サニックスグループでは、目に見えない性質のタスク型、垣根を越えて意見を交わすことを推進するオピニオン型も掛け合わせ、相乗効果を図りながら、ダイバーシティを推進してまいります。



### 福利厚生など

#### 社員持株制度

従業員が、希望に応じて毎月一定額を拠出し、自社株を持株会が買い付けます。従業員の資産形成を支援するとともに、従業員の経営参画意識を醸成する役割を担っています。

#### 保養施設(ハウステンボス)

九州随一の規模を誇るテーマパーク・ハウステンボス内の宿泊施設に、家族も含めて安価で宿泊する制度を設けています。

#### 資格手当

社内資格および会社が指定する公的資格を対象とし、保有者には永続的に資格手当を支給しています。資格取得を推進し、従業員の新たな知識・スキルの習得を促進します。

#### 福利厚生サービス

業界最大の会員制福利厚生サービスに入会。レジャー、ショッピング、育児、介護、自己啓発など、さまざまな場面での特典のほか、共済会との連携による、独自のサービスも用意しています。

#### 社宅制度

会社指示による異動などに際し、家賃を補助する社宅制度を設けています(各種要件あり)。



# 人に関するサステナビリティ(労働安全衛生)

## 労働安全衛生に関する基本方針

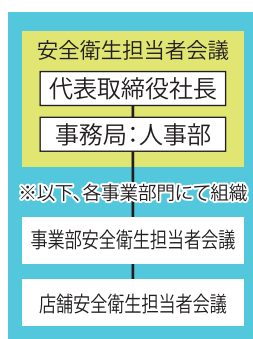
サニックスグループでは、従業員の安全と心身の健康は事業発展の礎であるという考えのもと、安全衛生への取り組みを企業活動の最も重要な基盤の一つと捉えています。安全で快適な職場環境の形成に努め、また、災害、事故の未然防止に向けて積極的に取り組んでまいります。

1. 安全は、事業発展の礎であることを認識し、労働災害ゼロを目指す。
2. 社員一人ひとりが安全確保に取り組み、強固な安全体制を構築する。
3. 安全を支える人材育成を図り、安全風土の形成に努める。

## 安全で快適な職場環境の形成を推進する安全管理体制

### ■安全管理体制組織

安全活動の充実、労働災害の防止および労働安全管理の向上を図ることを目的とした「安全管理規程」を定めています。この規程に則り各事業本部長および管理本部長を管理責任者とする代表取締役直轄の安全管理体制を確立し、業務運営に則した安全対策が実施できるように継続的に改善を行っています。



### ■協力会社との連絡会



建設業における協力会社を対象に労働安全衛生に関する協議の場(集合形式・各協力会社訪問等)を設けています。2023年度は会社訪問あるいは、資料配付を行いました。

## 労働災害に関する目標と実績(2023年度)

### 【基本方針】

社員の安全と健康の確保を企業活動の最も重要な基盤の一つと考え、さらなる安全管理体制を醸成し、「危険ゼロ」を究極の目標として、教育を通じ、サニックスグループ社員の安全と健康意識の高揚を図り、社員の自発的な行動と企業が協力して、安全で快適な職場環境を形成します。

### 【最重点目標】

1. 労働災害による死亡者ゼロ
2. 労働災害による休業4日以上ゼロ
3. 過重労働による健康障害防止のため80時間超ゼロ

### 【最重点施策】

- ・許容できないリスク(休業災害)は許容できるリスク(不休災害)まで低減させる。残留リスクも手当を行う。
- ・全社員を対象とした教育の実施(ハラスメントの発生防止のため、レジリエンス能力が高まる職場形成のため)。
- ・事業場に安全衛生推進者を選任して、包括した労働安全衛生管理を実施させる。
- ・安全衛生教育による危険感受性の高揚と危険敢行性の低下(抑制)を図る。
- ・全社員参画によるサニックス式ヒヤリハット作成の定着と提出された結果の分析および全社への水平展開。
- ・雇用管理責任者の職務を安全衛生推進者が担うための社内教育の実施(一部事業部は対象外)。
- ・安全衛生推進者を通じて心身の問題收拾を迅速化し、ハラスメント等研修を実施し問題を顕在化させ解決に努める。
- ・時間外労働60時間超の撲滅、これを超え過重労働が認められた社員は産業医WEB面談を実施する。また、必要に応じ協力会社を活用するために本社が主体となつて、協力会社を増やす。
- ・健診後異常の所見が認められた社員は必要な対応を行うとともに、社員自らも健康増進に取り組む職場環境の整備を行う。
- ・健康防止対策の推進(化学物質等、石綿、粉じん(保護具選定と教育を含む))。

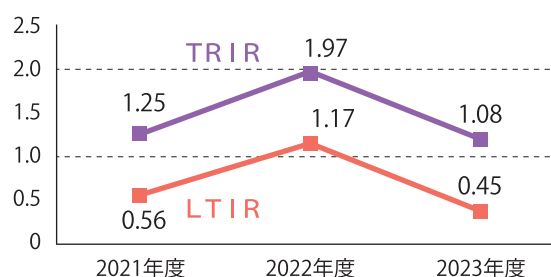
### 【重大災害被災者数】

2021年度	0人
2022年度	0人
2023年度	0人

### 【労働災害による死亡者数】

2021年度	0人
2022年度	0人
2023年度	0人

### 【総災害度数率(TRIR)・休業災害度数率(LTIR)の推移】



#### 度数率(TRIR)

$$\frac{\text{年度内の被労働災害者数}}{\text{総労働時間数}} \times 200,000$$

#### 休業災害度数率(LTIR)

$$\frac{\text{年度内の休業を取得した被労働災害者数}}{\text{総労働時間数}} \times 200,000$$

## 安全衛生管理活動の事例

### ■ヒヤリハット事例の共有・活用

各事業所で随時記録した事例を事業本部に提出し、共有・分析しています。また、危険度の高い事例は、毎月開催する安全衛生担当者会議で協議し、危険感受性を高めるとともに、対策・ルールの見直し・改善などを行っています。



集まった事例は、毎月、改善策とともに事業部全体で共有（ERD事業部門の例）。

### ■「操業・安全便り」の発行（ERD事業部門）

安全に対する知識習得や安全意識向上を目的に、毎月、安全衛生をテーマに、各種情報を発信しています。



### ■安全大会（ERD事業部門）



工場ごとに安全大会を開催しました（写真は富士工場）。防災、転倒災害防止、高齢労働者の安全対策、重機の安全講習、体力測定など、それぞれに趣向をこらした大会を企画・運営。事故・災害防止への知識と意識を高めました。

サステナブルな組織運営のためには、従業員が心身ともに健康な状態で働くことが重要であることから、メンタルヘルス不調の未然防止に積極的に取り組んでいます。

### ■メンタルヘルスケア

毎年12月に、法定の「ストレスチェック」を、全社員受検可能な体制で実施しています。自身のストレス状態を把握することでメンタルヘルス不調の早期発見・ケアにつなげる他、医師によるカウンセリングの体制も整え活用しています。2023年度は、10名が高ストレスと判断されました。

### ■5S活動

各事業所にて選任された5Sリーダーを中心に、毎月設定したテーマに沿って、5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）に取り組んでいます。

各事業所において取り組んだ活動内容に関する情報を、毎月、各事業本部にて集約。優れた取り組みや他事業所の参考となる取り組みについては、ポスターや社内報などで全事業所に紹介。情報を水平展開し、全社的な改善を図っています。



### ■安全衛生担当者会議（SE・HS・ES事業部門）

各事業所に安全衛生担当者を選出。月1回、地区ごとに、「安全衛生担当者会議」を開催しています。SE・HS・ES事業統括本部の技術部安全衛生指導課および、人事部安全衛生課の担当者も参加し、情報共有に努めています。



オンライン会議を中心として、状況に応じて集合会議も開催。

### ■ケア相談窓口ポスターの作成・掲示

ストレス要因は就業中に限りません。体調不良や家庭での介護によるストレス等さまざまです。社内の人に相談しにくいためにストレスを自身で抱え込むことを防止するために、社外の専門機関と提携し、社員が利用できる窓口を用意しています。ポスターを各事業所に掲示し、相談窓口の利用促進を図っています。



# 人に関するサステナビリティ(顧客満足)

## 顧客満足度向上に向けた施策(顧客満足度調査)

2018年11月に、「CS向上ワーキンググループ」を発足し、顧客満足度の把握・向上に努め、継続的な改善活動に反映させています。

### <顧客満足度把握の取り組み事例>

#### ① 顧客満足度アンケート(はがき・WEBフォーム)

訪問時、お客様にお渡しし回答を依頼する、はがき形式(WEB回答も可能)のアンケートを、SE・HS・ES事業部門で導入しています(その場で回収または、後日投函いただきます)。日常的に実施しているアンケートです。

お寄せいただいた内容は、取りまとめて、毎月1回、従業員にフィードバック(掲示物およびWEB社内報にて)するほか、お客様の声から課題を抽出し施策を講じることで、スパイラルアップを図ります。



#### お客様の声を収集



その場で回収する場合でも、本音で回答しやすい目隠しシール(HS)。

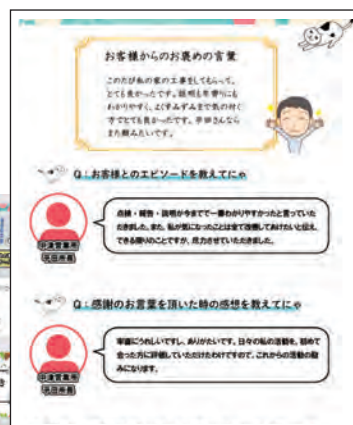


WEBでも回答可能。

#### お客様満足度向上に生かす



◀得られたお客様の声から、課題を抽出し、施策を検討。PDCAのサイクルを回す。

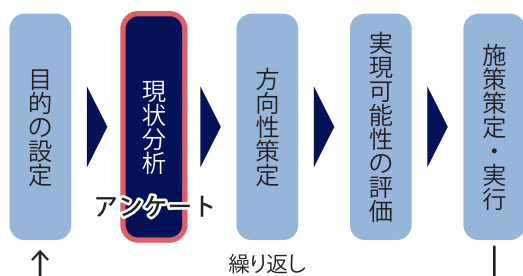


▲お客様の声を、WEB社内報等で、従業員にフィードバック。担当社員の言葉とともに、全社的に共有。

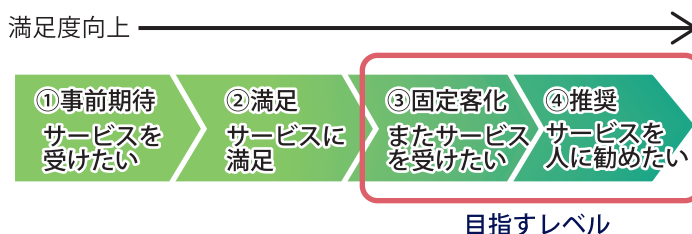
#### ② お客様満足度向上アンケート

2018年度より、戸建住宅向けのお客様に対して、年1回のアンケート調査を実施しています。シロアリ消毒保証期間中のお客様から、ランダムに約5,500名様を抽出(過去に抽出したお客様との重複なし)。郵送およびWEBで回答を収集し、分析しています。得られた回答は、分析を行い、課題を解決する施策を策定・実施することで、以降の業務に反映させています。

#### ■顧客満足度向上のプロセスとアンケートの位置づけ



#### ■目標とする顧客満足度のレベル



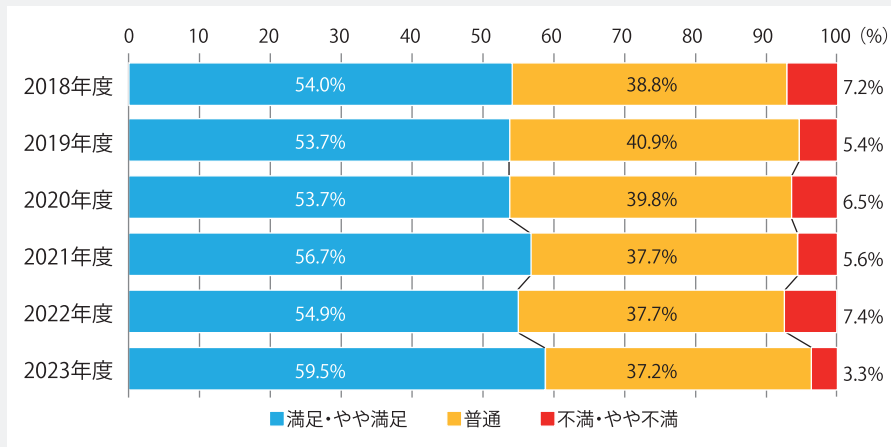


「お客様満足度向上アンケート」実施状況

	実施時期	配布数	有効回答数	有効回答率	総合満足度(5点満点での平均点)		
					消毒	定期点検	リピート意向
2018年度	2019年1月	5,373名	1,223名	22.8%	3.83	3.71	4.28
2019年度	2020年1月	5,484名	1,224名	22.3%	3.84	3.71	4.25
2020年度	2021年1月	5,608名	911名	16.2%	3.88	3.72	4.29
2021年度	2022年1月	6,055名	956名	15.8%	3.91	3.78	4.31
2022年度	2023年1月	5,850名	730名	12.5%	3.91	3.71	4.26
2023年度	2024年1月	5,484名	1,169名	21.3%	3.98	3.86	4.32

2023年度については、回収率の向上を目的として、記憶が新しいと思われる、6カ月以内に点検をお受けいただいたお客様を対象に実施しました(2022年度までは、点検からの経過期間の制限は設けずに実施)。条件(対象)の属性が異なるため、過去結果との単純比較はできないものの、すべての設問において、過去最高の満足度となりました。

定期点検(総合)満足度の推移



これまでのアンケート結果の分析により、「定期点検の満足度」が「リピート意向」や「推奨意向」との相関関係が高いことがわかっています。

定期点検関連の満足度平均点(5点満点)の推移

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総合	3.71	3.71	3.72	3.78	3.71	3.86
案内ハガキ	3.48	3.51	3.52	3.55	3.53	3.64
アポイント	3.52	3.54	3.59	3.59	3.59	3.71
訪問時マナー	3.97	4.00	4.04	4.04	3.99	4.10
点検内容	3.92	3.91	3.96	3.98	3.93	4.06
点検結果報告	3.96	3.92	3.97	4.05	3.96	4.09

サニックスに対するご意見(自由記述) 2023年度アンケート回答より

分類	ご意見(一部抜粋)
お誉め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シロアリ定期点検の時に気づかれた家の注意すべき点を教えていただけ、とても助かりました(水道管が少しおかしいなど)。どれも適切で信頼できる会社だと思います。いつもありがとうございます。</li> <li>・いつもながら作業員さんの態度も良く、礼儀正しく、床下の大変な所を一生懸命に働いてくれていますので感謝しています。</li> </ul>
ご要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎のヒビ割れ等修復して頂きましたが、修理箇所、基礎等に亀裂が入る恐れがある様な地震が発生した場合、定期検査前後でも点検をお願いします。そう言う対応して頂ければ信頼度はよりアップします。</li> <li>・消毒剤の安全性や危険性に関して、ユーザーにできるだけ情報公開をしてほしい。</li> </ul>
お叱り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点検の連絡はもう少し早めにしてもらいたい。</li> <li>・点検に来る人が毎年代わっている。必ずしも同じ人が来なくてもよい。しかし、点検結果の説明で定型的内容には人による違いは感じられないが、基礎のひび割れなどシロアリ消毒以外の項目には説明内容の詳しさに違いがあるように感じる。</li> </ul>

# 社会貢献活動



## スポーツ・文化国際交流振興を通じた青少年の健全育成

サニックスグループは、国際的なスポーツ大会や文化イベントを実施し、ユース世代選手の育成・国際交流の場を提供しています。その舞台は、当社創業者が私費（株式公開時に得た創業者利益）を投じてつくった、総合スポーツ・文化施設「グローバルアリーナ」（福岡県宗像市）。

スポーツ大会では、選手同士が競技以外にも、生活をもとにしながらコミュニケーションを図り、お互いの文化への理解を深めます。日本選手の礼儀正しさに感銘を受けた海外選手が、あいさつやお辞儀、整列などの行動を真似するようになったり、ウェルカムパーティーで、あるチームが「We are the world」を合唱すれば、次々と他のチームの選手が加わり大合唱になったり。これらも、いまや毎年の光景となっています。

ユース世代のスポーツイベント歴代参加者数  
(ラグビー・サッカー・ハンドボール・新体操・柔道)

**43**カ国・地域から約**55,000**人

(2024年3月末現在)

上記大会は、2015年10月以降、スポーツ・フォー・トゥモロー<sup>\*</sup>の認定事業として実施。7年間の活動で、当会員団体で最多の認定事業を実施したことが評価され、「スポーツ庁長官感謝状」を授与されました(2022年1月)。



◀室伏スポーツ庁長官(当時)より、オンラインで感謝状授与。(2022年1月26日)

※スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT) 日本の官民連携によるスポーツを通じた国際貢献事業。

### グローバルアリーナ ブルガリアフェスティバル

2001年から、毎年開催<sup>\*</sup> ※2001年は12月、以後9月。  
【主催：(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



■趣旨  
ブルガリアの文化を紹介するとともに、日本とブルガリア双方の異文化・国際交流を図る。来日するカザンラック民族舞踊団は、グローバルアリーナでのイベントの他、各地の小中学校や福祉施設も訪問。

### サニックス ワールドラグビーユース交流大会

2000年から、毎年4月下旬～5月上旬に開催。  
女子(7人制)は2013年から。  
【主催：(公財)日本ラグビーフットボール協会、(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



■歴代参加国・地域  
オーストラリア、カナダ、台湾、イングランド、フィジー、フランス、アイルランド、イタリア、韓国、ニュージーランド、ロシア、サモア、スコットランド、南アフリカ、トンガ、ウルグアイ、ウェールズ、日本  
(2023年までの累計参加者：13,912人)

### サニックス杯 国際ユースサッカー大会

2003年から、毎年3月下旬に開催  
【主催：(一社)九州サッカー協会、(一財)サニックススポーツ振興財団】



■歴代参加国・地域  
オーストラリア、ブルガリア、中国、台湾、イングランド、フランス、インド、イタリア、韓国、マレーシア、オランダ、ニュージーランド、ロシア、タイ、アメリカ、ウズベキスタン、ベトナム、日本  
(2024年までの累計参加者：8,369人)  
※女子の国内大会も2014年より実施(同累計参加者：2,176人)

### サニックスカップ U-17国際ハンドボール交流大会

2008年から、毎年10月下旬に開催  
【主催：九州ハンドボール協会、(一財)サニックススポーツ振興財団】



■歴代参加国・地域  
カナダ、台湾、フランス、ドイツ、香港、韓国、オランダ、タイ、日本  
(2023年までの累計参加者：4,027人)  
女子大会は2013年より開催。

### サニックスCUP 国際新体操団体選手権大会

2003年から、毎年11月下旬に開催<sup>\*</sup> ※2012年度までは国内大会。  
【主催：(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



■歴代参加国・地域  
オーストラリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、中国、台湾、香港、カザフスタン、韓国、リトアニア、マレーシア、ロシア、タイ、日本  
(2023年までの累計参加者：12,144人)

2017年より、対象の年齢層を上げた「サニックスOpen新体操チーム選手権」を1月に、国内男子による「SANIXCUP男子新体操競演会」を2月に開催。  
(2024年までの累計参加者：サニックスOpen804人、SANIXCUP男子606人)

### サニックス旗 福岡国際中学生柔道大会

2003年から、毎年12月に開催  
【主催：九州柔道協会、(一財)サニックススポーツ振興財団他】



■歴代参加国・地域  
オーストラリア、ベスラン、ブルガリア、チェチェン共和国、中国、台湾、ドイツ、香港、イスラエル、韓国、ラトヴィア、モンゴル、オランダ、パレスチナ、ルーマニア、ロシア、シンガポール、スロベニア、南アフリカ、スリランカ、アラブ首長国連邦、アメリカ、日本  
(2023年までの累計参加者：13,035人)

★マークの写真は©MasafumiONO

## グローバルアリーナ ブルガリアフェスティバル

2001年夏、ブルガリアを訪れた故宗政伸一（サニックス創業者=前社長）は、同国の文化や人間性に感銘を受け、以後毎年、日本で「ブルガリアフェスティバル」を開催してきました。

当フェスティバル等を通じて、日本とブルガリアの活発な文化的交流を図ってきたことから、宗政伸一は、2007年10月8日、在福岡ブルガリア共和国名誉領事に任命されました。宗政伸一の逝去に伴い、宗政寛（サニックス現社長）が2019年1月16日、在福岡ブルガリア共和国名誉領事の命を受け、現在に至ります。

コロナ禍による実施見送りや規模縮小を余儀なくされた当フェスティバルでしたが、2023年には4年ぶりに本来の姿で開催しています。

### 第20回（2023年9月）グローバルアリーナ ブルガリアフェスティバルより

#### ■カザンラック民族舞踊団によるイベント／国際交流

#### ワールドフェスティバル



世界の屋台料理やダンス・音楽に触れるワールドフェスティバル。ブルガリアから、カザンラック民族舞踊団\*が来日し、軽快な音楽とダンスで盛り上げます。来場者も一緒に輪踊り。

\*カザンラック民族舞踊団・・・1947年創立の、ブルガリアで最も長い伝統を誇る青少年舞踊団。

#### 公演



グローバルアリーナの所在する宗像市（福岡県）での公演。なお、宗像市は、当フェスティバルをきっかけに、カザンラック市とパートナーシップ協定を締結しています。

#### 学校・保育園・老人ホーム訪問



毎年、小中学校等を訪問し、子供たちと触れ合っています。また、老人ホームも訪問し、地域の方々との交流を深めました。



2019年3月、ブルガリア共和国ザハリエヴァ副首相兼外務大臣（当時）より、在福岡ブルガリア共和国名誉領事任命証を授与。

#### ■イベント参加



カザンラック民族舞踊団は、来日中の同時期に開催されるイベントにも参加し、民族舞踊を披露しています。写真は、チャイナフェスティバル（福岡市）。

#### ■宿泊交流



地元ダンス団体の皆さんと。



地元大学ダンス部の皆さんと。

地元の青少年が、グローバルアリーナで、カザンラック民族舞踊団メンバーと交流を図り、ブルガリアにホームステイしたような体験ができる機会を設けています。

2023年は、フェスティバル期間中、計2回実施しました。

## サニックスワールドラグビーユース交流大会

2000年から実施している、歴史ある大会です。いまや、当大会に出場した選手が、国内外トップレベルのリーグで活躍する姿も見られるようになってきました。世界中の高校生が、競技以外の生活においてもコミュニケーションを図り、互いの文化や習慣を学び、理解を深めるのも特徴の大会です。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、従来よりも参加チームを減らしたものの、4年ぶりの国際大会としての開催が叶いました(男子:例年より4チーム減の12チーム(海外6、国内6)、女子:8チーム(海外3、国内5))。

### 2023年度大会より



恒例のウェルカムパーティーは、飲食を伴うことから実施を控え、代わりに選手交流会を行い、文化交流を図りました。また、全試合、ライブ配信を行い、世界中から観戦いただきました。

#### 参加者談

◆どのチームもレベルが高かった。そんなチームと試合ができて良かったし、素晴らしい体験になりました。(男子海外チームキャプテン)

◆海外チームとの試合で一番感じたことは、体の大きさです。国内では、なかなか経験できない相手で、良い経験ができました。

(男子国内チームキャプテン)

◆海外チームと試合をし、いい加減な緩いタックルでは体格差があるので通用しないと感じました。

(女子国内チームキャプテン)

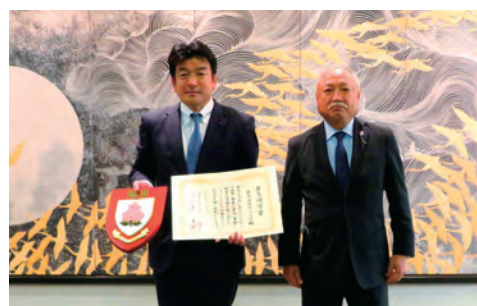
◆日本のラグビーに感銘を受けました。セットプレーとディフェンスがとても良い。でも陣形が整っていない時のプレーは我々の方が確実に上回っていました。(男子海外チーム監督)

◆海外の選手が、開会式前にとっても明るくあいさつして来てくれて、一緒に遊んだりして、仲を深めることができました。(女子国内チームキャプテン)

◆試合以外でも、他国の選手と交流する機会がたくさんありました。例えば、夜はフロントや休憩スペースに集まり親交を深めました。ユニフォームの交換もできて本当に楽しかったです。(男子海外チームキャプテン)



優勝チーム。男子(写真左):ハミルトン ボイズ ハイスクール(ニュージーランド)、女子(写真右):キングスクリスチャンカレッジ(オーストラリア)。



ラグビーの振興・発展の貢献に対し、(公財)日本ラグビーフットボール協会より2019年度普及功労賞を受賞。(写真右は、同協会森重隆会長(当時))

## サニックス杯 国際ユースサッカー大会／サニックス杯U17女子サッカー大会

2023年度(2024年3月)は、新型コロナウイルス感染症が5類感染移行後初の開催となり、海外4チーム、国内12チームの16チームで、国際大会として実施することができました。従来より国内校のみで実施している女子の大会についても、チーム数および期間を増やして、16チームで4日間の大会を実施しました。

なお、男子は全試合、女子は上位トーナメントのみ、ライブ配信を行いました。

### 2024年(2023年度)大会より



#### 参加者談

◆運営は時間通り行われ、試合に集中することができました。宿泊と競技が同じ施設内にあることのメリットは大きく、選手の健康管理も十分に行うことができました。  
(海外チームコーチ)

## サニックスカップ U-17国際ハンドボール交流大会

ユース世代のハンドボールの普及と発展、競技力の向上、グローバルな視野を持つ青少年の育成を目指して開催している大会です。2023年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、香港から男子1チームを招請することができ、小規模ながら4年ぶりの国際大会となりました。女子大会の価値向上を目指し、男女とも8チームの大会に。3会場から全試合、ライブ配信も行いました。また、選手交流会では、お互いの文化やチームカラーを出し、大いに盛り上がりました。

### 2023年度大会より



#### 参加者談

◆大会はレベルが高く、運営もよく、選手は試合に集中することができました。グローバルアリーナは、競技にも宿泊にも快適な場所であり、スタッフのホスピタリティも素晴らしいものでした。また、参加したいと思います。  
(海外チームヘッドコーチ)

## サニックスCUP 国際新体操団体選手権

ジュニア・チャイルド層の新体操の普及を図るとともに、日頃の練習の成果を発表する場として、また、参加選手が技術と表現力を学び合い、国際交流を図ることを目的として開催しています。

2023年度は、海外からブルガリア、香港、中華台北から4チーム、国内からは80チームが参加し、総勢500名を越える選手たちが、日ごろの練習の成果を発揮しました。ブルガリアのレフスキー新体操クラブと、地元福岡の小学校や団体との交流も実施。地域との文化交流も推進しています。



### 参加者談

- ◆若い選手にとって海外の地で大会に参加することは、技術を学び向上させるのにとっても大事なことです。サニックスカップでは生活もともにするので、文化も学び合うことができました。  
(オーストラリアチームコーチ)

## サニックスOpen新体操チーム選手権

ジュニア大会参加者の新たな目標となる大会として、新体操の普及を推進するとともに、世界の技術と触れ合うこと、国際交流の機会を設けることを目的としています。2023年度は、海外からはブルガリア、オーストラリア、香港、韓国の4カ国から6チーム、国内からは21チーム、総勢約130名の参加者を迎えました。



### 参加者談

- ◆素晴らしい環境で、試合ができて、子どもたちの刺激になりました。来年はもっとレベルアップして試合に参加したいです。(韓国チームコーチ)

## SANIX CUP男子新体操競演会

幼稚園児から高校生までを対象としている国内大会です。2023年からはジュニア対象に「ミックス部門」を新設し、団体で女子選手にも演技の機会を広げました。11チーム、約120名が参加し、技を競い合いました。



### 参加者談

- ◆男子新体操は大会自体が少ないので、このような素晴らしい環境で多くの選手が参加する大会を行っていただき感謝しています。(参加チームコーチ)

## サニックス旗 福岡国際中学生柔道大会

中学生柔道の普及・発展ならびに競技力の向上を目指すとともに、国際大会で活躍できる競技者および、次世代を担う青少年の健全な育成を図り、国際社会で貢献できる人材を育てることを目的とした大会です。男子大会としてスタートし、10回目大会から女子大会も併せて実施。本大会の経験者から、オリンピックや世界選手権の金メダリストも誕生しています。2023年度は、海外から12チーム、国内から95チーム、男女総勢525名が出場しました。



### 参加者談

- ◆これだけ大勢の選手が参加する大会が当たり前のように行われる環境にすることができて、素晴らしいと感じました。ぜひ今後も続けてほしいし、参加したいと思います。  
(モンゴルチームコーチ)

## 教育参画

サニックスグループでは、従業員の質が、お客様に提供する仕事の質に直結するという考えから、創業当初から、教育に注力してきました(46ページ参照)。長きにわたる従業員教育等で得た、育成に関する知見およびノウハウを、また社内の人的資源を社外にも提供しています。

### ラグビーを通じたスポーツ・健康指導～小学校では教育課程として授業に定着～



体育の授業でタグラグビー指導



体育の授業でタグラグビー指導



サニックスラグビーアカデミー(ラグビー塾)



サニックスラグビーアカデミー(ラグビー塾)

2022年9月の開講から、2年目を迎えた「サニックスラグビーアカデミー」。ラグビー部「宗像サニックスブルース」(2022年5月活動休止)の活動で培った経験、人材や施設を活用し、(一財)サニックススポーツ振興財団(1997年財団法人として設立)とともに、ラグビーを通じた地域貢献を継続しています。

小学校の体育の授業におけるタグラグビー指導、幼稚園・保育園児へのラグビー訪問教室、小・中学生を対象とするラグビー塾などにより、子どもたちを全力でサポート。その他、各種ラグビー関連イベントや講習会へのコーチ派遣、大人(未経験者歓迎)を対象としたラグビー教室も行っています。

#### 小学校(授業)でのタグラグビー指導

15校、976人(2022年度)  
15校、929人(2023年度)

#### 幼稚園・保育園ラグビー訪問教室

8園、180人(2022年度)  
9園、265人(2023年度)

#### サニックスラグビーアカデミー(ラグビー塾)

4クラス、67人(2023年3月末)  
6クラス、159人(2024年3月末)

### 「サニックスラグビーアカデミー」の諸活動

#### 小・中学生ラグビー塾



※この塾のことも「サニックスラグビーアカデミー」と呼んでいます。

小学5・6年生クラス、中学生クラスをそれぞれ週3回(平日夜)開講しています。経験豊富なコーチ陣の指導は好評で、受講生は開校から1年半で、約3倍に増加しました。

#### 各種イベントでのコーチング



コーチ陣は、日本代表発掘プログラム、国際友好記念イベント、大学ラグビー選手講習など、幅広い場で活躍しています。

写真は、日本ASEAN友好協力50周年の記念イベントプログラム「JENESYS 日本・ASEANスポーツ(ラグビー)×SDGs交流」(2024.2.20-22)。

#### 大人のにわかラグビー教室



2022年2月からスタートした、大人対象のラグビー教室。2023年11月には、「ラグビーワールドカップ2023で観たプレーの再現」をテーマとした特別編も実施しました。

### 教育現場への社内人材派遣など

#### ▶小・中学校キャリア教育への講師派遣

現在、学校教育において、将来子どもたちが、社会的・職業的に自立し、自分らしく生きていくための力を育む「キャリア教育」が推進されています。

当社においては、従業員を各種出前授業に講師として派遣し、キャリア教育のお手伝いをしています(福岡キャリア教育研究会による「夢授業」、(一社)ジョブレンズ実行委員会による出前授業など)。



# サステナビリティデータ

## 環境 Environment



### ■事業を通じた環境貢献

		単位	2021年度	2022年度	2023年度
廃プラスチック処理量		(千t)	282	273	278
廃棄資源を利用した発電量 <sup>*1)</sup>		(GWh)	291	242	262
ソーラーパネル	設置件数	(件)	1,531	952	692
	設置容量	(MW)	36	31	28
受託廃液の浄化処理量		(千t)	102	100	103

\*1) 当社プラスチックリサイクル工場にて中間処理を行ったプラスチックを原料とした発電量を記載しています。

### ■事業における環境負荷

		単位	2021年度	2022年度	2023年度
エネルギー使用量 <sup>*2)</sup>	非化石	(千GJ)	—	—	4,663
	化石	(千GJ)	377	334	228
温室効果ガス排出量	Scope1 <sup>*3)</sup>	(t・CO <sub>2</sub> )	10,933	9,623	7,681
	Scope2 <sup>*4)</sup>	(t・CO <sub>2</sub> )	14,309	11,610	13,003
水使用量		(千t)	295	277	253

\*2) 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度(以下:SHK制度)報告対象の当社グループ拠点における報告数値を記載しています。省エネ法改正に伴い、2023年度より非化石エネルギー使用量が報告対象となりました。非化石エネルギー使用量の大半は、(株)サニックスエナジー苫小牧発電所における自家消費によるものです。なお、2021・2022年度の化石エネルギー使用量には、非化石プランの電気使用量を含みます。

\*3) SHK制度で算定を行った調整後排出量の数値に加え、社有車使用による数値および当社グループ内の該当数値を合算して算出しています。

\*4) SHK制度で算定を行った調整後排出量の数値に加え、当社グループ内の該当数値を合算して算出しています。

## 社会 Social



### ■雇用・従業員(サニックス単体)

		単位	2021年度	2022年度	2023年度	
雇用・人員	従業員数	合計	(人)	1,869	1,868	1,871
		男性/女性	(人)	1,559/310	1,556/312	1,561/310
	入社数	合計	(人)	226	253	230
		新卒/中途	(人)	43/183	97/156	56/174
	障がい者雇用	人数/比率	(人/%)	31/2.3	31/2.4	30/2.2
	外国籍従業員 <sup>*6)</sup>		(人)	24	11	12
	定年退職者の再雇用 <sup>*7)</sup>		(人)	132	144	157
	平均年齢		(歳)	42.9	43.9	43.6
平均勤続年数		(年)	9.9	10.1	10.7	
労働・休暇	平均総実労働時間		(時間/人)	2,345	2,283	2,302
	平均有給休暇取得日数		(日/人)	9.7	12.4	10.7
			(%)	56.9	68.6	64.4
	育児休業取得者数	合計	(人)	15	25	23
		男性/女性	(人)	2/13	6/19	11/12
介護休業取得者数		(人)	1	3	1	
労働安全衛生	TRIR(総災害度数率) <sup>*8)</sup>			1.25	1.97	1.08
	LTIR(休業災害度数率) <sup>*9)</sup>			0.56	1.17	0.45
	災害死者数		(人)	0	0	0
人財開発	年間研修参加人数(延べ) <sup>*10)</sup>		(人)	442	595	701

\*6) 3月末時点で外国籍を保有する者を指します。

\*7) 3月末時点の累計を記載しています。

\*8) 20万延べ労働時間あたりの不労災害を含めた総労働災害の発生頻度。

\*9) 20万延べ労働時間あたりの休業災害の発生頻度。

\*10) 研修とは、当法人財開発部が主催する、自己研鑽を含む社員研修および、事業部門別研修を指します。



## 社会 Social



## ■地域・社会貢献活動

		単位	2021年度	2022年度	2023年度	
出前授業の実施状況	人財開発部	(訪問件数)	(件)	1	0	0
		(対象人数)	(人)	190	0	0
	ラグビー部等 <sup>*11)</sup>	(訪問件数)	(件)	27	23	45
		(対象人数)	(人)	1,501	1,156	4,626
サニックスラグビーアカデミー <sup>*12)</sup>		(開催数)	(回)	—	55	31
		(受講者数)	(人)	—	67	140
ブルガリアフェスティバルの実施状況		(来場者数)	(人)	3,720 <sup>*13)</sup>	2,426 <sup>*13)</sup>	5,048 <sup>*13)</sup>
サニックスプレゼンツイベントの実施状況		(参加チーム数)	(チーム)	217 <sup>*13)</sup>	317 <sup>*13)</sup>	297 <sup>*13)</sup>
		(参加人数)	(人)	1,888 <sup>*13)</sup>	2,830 <sup>*13)</sup>	2,729 <sup>*13)</sup>
サニックス ワールドラグビークース交流大会		(参加チーム数)	(チーム)	— <sup>*13)</sup>	20 <sup>*13)</sup>	20 <sup>*13)</sup>
		(参加人数)	(人)	— <sup>*13)</sup>	456 <sup>*13)</sup>	456 <sup>*13)</sup>
サニックス杯国際ユースサッカー大会 サニックス杯高校女子サッカー大会 <sup>*14)</sup>		(参加チーム数)	(チーム)	24 <sup>*13)</sup>	28	32
		(参加人数)	(人)	582 <sup>*13)</sup>	700	743
サニックスカップ U-17国際ハンドボール交流大会		(参加チーム数)	(チーム)	12 <sup>*13)</sup>	12 <sup>*13)</sup>	16 <sup>*13)</sup>
		(参加人数)	(人)	185 <sup>*13)</sup>	185 <sup>*13)</sup>	257 <sup>*13)</sup>
サニックスCUP 国際新体操団体選手権		(参加チーム数)	(チーム)	122 <sup>*13)</sup>	121 <sup>*13)</sup>	84 <sup>*13)</sup>
		(参加人数)	(人)	740 <sup>*13)</sup>	790 <sup>*13)</sup>	503 <sup>*13)</sup>
サニックス旗 福岡国際中学生柔道大会		(参加チーム数)	(チーム)	56 <sup>*13)</sup>	100 <sup>*13)</sup>	107 <sup>*13)</sup>
		(参加人数)	(人)	309 <sup>*13)</sup>	501 <sup>*13)</sup>	525 <sup>*13)</sup>
SANIX CUP 男子新体操競演会		(参加チーム数)	(チーム)	— <sup>*13)</sup>	7	11
		(参加人数)	(人)	— <sup>*13)</sup>	78	118
サニックスOpen 新体操チーム選手権		(参加チーム数)	(チーム)	3 <sup>*13)</sup>	29	27
		(参加人数)	(人)	72 <sup>*13)</sup>	120	127

\*11) 保育園・幼稚園・小学校でのタグラグビー授業、地域住民へのラグビー体験・健康教室も含まれています。

\*12) 2022年9月に開講した、小学生から中学生を対象とするラグビー塾です。

\*13) 2020年3月～2022年12月は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止の観点から、実施見送りや規模縮小(国内大会としての実施など)の対応を取っています。

\*14) 2022年度より、参加対象をクラブチームまで拡大し、大会名称を「サニックス杯U17女子サッカー大会」に変更しています。

## ガバナンス Governance



		単位	2021年度	2022年度	2023年度
取締役の人数	社内	(人)	11	10	10
	社外	(人)	5	5	5
	総計	(人)	16	15	15
社外取締役比率		(%)	31	33	33
取締役任期		(年)	1	1	1
取締役会	開催回数	(回)	16	16	16
監査役会	開催回数	(回)	—	—	—
監査等委員会	開催回数	(回)	13	14	14
コンプライアンス委員会	開催回数	(回)	0	0	7
	委員数	(人)	15	15	27
内部統制委員会	開催回数	(回)	11	10	12
	委員数	(人)	14	13	12

# マネジメント体制

## 取締役



代表取締役社長  
むねまさ ひろし  
**宗政 寛** (1975年7月17日生)

2003年1月 当社入社  
2007年6月 取締役役員室付特命担当  
2013年6月 取締役副社長執行役員  
2017年1月 代表取締役社長、現任  
2017年1月 (株)バイオン代表取締役社長、現任  
2017年2月 (一財)サニックススポーツ振興財団代表理事、現任  
2017年9月 宗政酒造(株)代表取締役会長、現任  
2020年4月 (株)サニックスエナジー代表取締役会長、現任  
2020年7月 (株)SEウイングズ代表取締役会長、現任  
2022年6月 (公財)金子財団理事、現任



取締役 副社長執行役員  
いなだ たけし  
**稲田 剛士** (1979年3月4日生)

1998年8月 当社入社  
2009年4月 HS事業本部関西地区本部部长  
2013年6月 常務執行役員HS事業本部関西地区本部部长  
2014年4月 常務執行役員西日本SE事業本部関西地区本部部长兼HS事業本部関西地区本部部长  
2016年12月 常務執行役員東日本SE事業本部本部長  
2017年4月 常務執行役員SE・HS・ES事業統括本部長  
2017年6月 取締役常務執行役員SE・HS・ES事業統括本部長  
2023年6月 取締役副社長執行役員SE・HS・ES事業統括本部長  
2024年4月 取締役副社長執行役員SE・HS・ES事業統括本部長兼住環境事業会社設立準備室長、現任



取締役 常務執行役員  
ますだ みちまさ  
**増田 道正** (1977年8月16日生)

2001年4月 当社入社  
2010年7月 経理部長  
2012年6月 取締役経理部長  
2015年6月 取締役常務執行役員経理部長兼IT推進担当  
2018年8月 (株)サニックス太陽光でんき代表取締役社長、現任  
2019年11月 取締役常務執行役員管理本部副本部長兼エネルギー事業本部エネルギー事業開発部長  
2022年6月 取締役常務執行役員コーポレート本部長兼管理本部長  
2023年7月 取締役常務執行役員経営企画本部長、現任



取締役 常務執行役員  
たばた かずゆき  
**田畑 和幸** (1973年4月5日生)

2000年11月 当社入社  
2015年10月 西日本SE事業本部四国地区本部部长兼HS事業本部四国地区本部部长  
2016年1月 HS事業本部営業推進部長  
2016年5月 常務執行役員HS事業本部長  
2017年6月 取締役常務執行役員HS事業本部長  
2022年6月 取締役常務執行役員SE・HS・ES事業統括本部副本部長兼SE事業本部長兼HS事業本部長、現任



取締役 常務執行役員  
たけい ひでき  
**武井 秀樹** (1970年7月21日生)

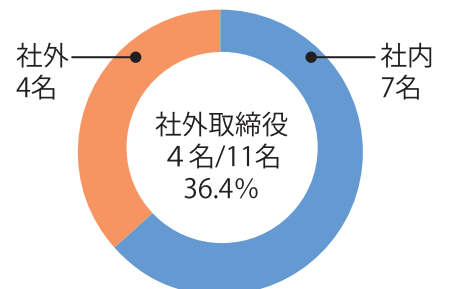
1999年8月 当社入社  
2009年12月 環境資源開発事業本部管理部長  
2016年4月 執行役員環境資源開発事業本部長兼管理部長  
2016年6月 常務執行役員環境資源開発事業本部長  
2017年10月 取締役常務執行役員環境資源開発事業本部長  
2022年4月 取締役常務執行役員環境資源開発事業本部長兼資源リサイクル事業部長  
2024年4月 取締役常務執行役員環境資源開発事業本部長兼資源リサイクル事業部長兼資源循環事業会社設立準備室長、現任



取締役 常務執行役員  
いのうえ もとい  
**井之上 基** (1967年1月1日生)

1989年4月 (株)西日本銀行(現(株)西日本シティ銀行)入行  
2020年4月 同行西新町支店長兼福岡西ブロック長  
2022年4月 当社入社、本社付部長  
2022年6月 取締役執行役員SE・HS・ES事業統括本部法人営業部営業推進部長  
2024年6月 取締役常務執行役員SE・HS・ES事業統括本部法人営業部長、現任

### 取締役会の構成



2024年6月27日現在

取締役 (監査等委員)



取締役 (常勤監査等委員)  
かねこ けんじ  
**金子 賢治** (1951年10月2日生)

- 1970年4月 (株)西日本相互銀行(現(株)西日本シティ銀行) 入行
- 2008年6月 当社常務取締役事業戦略担当
- 2008年10月 常務取締役事業戦略担当兼環境資源開発事業本部長
- 2010年6月 常務取締役HS事業本部特別販売部(現法人営業部) 部長
- 2017年4月 取締役常務執行役員SE・HS・ES事業統括本部副本部長兼特別販売部(現法人営業部) 部長
- 2024年6月 取締役常勤監査等委員、現任



社外取締役 (監査等委員)  
かねこ なおき  
**金子 直幹** (1967年5月8日生)

- 2001年6月 (株)トヨタレンタリース福岡代表取締役社長、現任
- 2005年5月 福岡昭和タクシー(株)代表取締役社長、現任
- 2006年6月 福岡トヨタ自動車(株)代表取締役社長、現任
- 2009年9月 (株)SEEDホールディングス代表取締役社長、現任
- 2010年2月 昭和グループマーケティング(株)代表取締役社長、現任
- 2010年5月 トヨタL&F福岡(株)代表取締役社長、現任
- 2010年6月 九州朝日放送(株)社外取締役、現任
- 2013年6月 トヨタカローラ福岡(株)代表取締役会長、現任
- 2014年6月 昭和自動車(株)代表取締役会長、現任
- 2015年6月 当社社外取締役
- 2019年6月 当社社外取締役 (監査等委員)、現任
- 2019年10月 福岡トヨペット(株)代表取締役会長、現任
- 2020年4月 トヨタモビリティサービス福岡(株)代表取締役会長
- 2022年2月 (一社)日本自動車販売協会連合会会長、現任
- 2023年9月 (株)トヨタレンタリース博多代表取締役会長、現任



社外取締役 (監査等委員)  
くぼた やすふみ  
**久保田 康史** (1946年2月5日生)

- 1968年4月 最高裁判所司法研修所入所
- 1970年3月 最高裁判所司法研修所修了
- 1970年4月 弁護士登録(東京弁護士会入会) 明舟法律事務所入所
- 1980年4月 霞ヶ関総合法律事務所設立 同事務所パートナー弁護士、現任
- 2013年3月 ロイヤルホールディングス(株)監査役
- 2016年3月 ロイヤルホールディングス(株)社外取締役 (監査等委員)
- 2016年6月 当社社外取締役
- 2019年6月 当社社外取締役 (監査等委員)、現任



社外取締役 (監査等委員)  
ばば さだひと  
**馬場 貞仁** (1954年4月3日生)

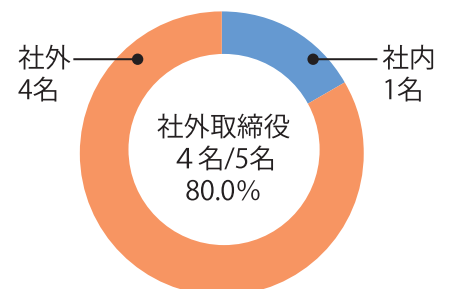
- 1978年4月 トヨタ自動車工業(株)(現トヨタ自動車(株)) 入社
- 1992年2月 トヨタ自動車九州(株)転籍
- 1998年1月 同社生産管理部生産企画室長
- 2001年4月 同社生産管理部長
- 2003年4月 同社経営管理部長
- 2003年6月 同社取締役
- 2007年6月 同社常務取締役
- 2011年6月 同社専務取締役
- 2014年6月 同社代表取締役副社長
- 2021年1月 同社エグゼクティブアドバイザー
- 2021年6月 リックス(株)社外取締役 (監査等委員)、現任
- 2021年6月 当社社外取締役 (監査等委員)、現任



社外取締役 (監査等委員)  
おおえ ひろゆき  
**大江 啓之** (1956年6月17日生)

- 1979年4月 (株)ダイエー入社
- 1994年4月 (株)キャプテンクック取締役人事部長
- 1998年6月 (株)中合人事部長
- 2000年4月 (株)ダイエー西日本人事部長
- 2001年10月 扶桑化学工業(株)入社
- 2006年4月 同社取締役管理本部長
- 2007年4月 同社取締役ライフサイエンス事業部長
- 2009年4月 同社取締役電子材料事業部長
- 2016年12月 ビー・シー・エー(株)入社
- 2017年10月 同社管理本部長
- 2021年7月 同社顧問、現任
- 2024年6月 当社社外取締役 (監査等委員)、現任

監査等委員会の構成





### ■取締役会の役割

サニックスグループの持続的な成長および中長期的な企業価値の向上に資するため、適法かつ迅速に重要事項（経営計画や経営戦略）に対する適切な意思決定を行うとともに、監査等委員会と協働して取締役（監査等委員であるものを除く）および執行役員の職務執行を監督する。

### ■監査等委員会の役割

取締役の職務執行の監査・監督、会計監査人の選任・解任および不再任に関する議案の内容の決定ならびに監査報酬に係る権限の行使など、その他法令および監査等委員会規程により定められた事項を実施する。

### ■内部統制委員会

- ・内部統制の整備・運用を推進するとともに、有効性の評価結果の取りまとめを行う。
- ・サニックスグループの事業を取り巻く内外のリスク要因を見直し、取締役に報告する。
- ・適正な財務報告を実現するため、監査等委員会と緊密に連携し、適時適切に意見交換を行い、内部統制の実効性を高める。
- ・委員長は取締役社長とし、各事業部門の本部長、管理本部長、総務部長、法務部長、経理部長他が委員として構成される。経営企画部内に事務局を置き、運営にあたる。

### ■監査体制（三様監査）

監査等委員は、経営会議等重要な会議に出席することで収集した各種情報を監査等委員会で共有することにより、取締役の職務遂行を監査・監督することとしています。また、会計監査人と緊密な意見交換を行い、内部監査および内部統制関連部署とは、そのレポートラインに監査等委員会を加えることにより連携を密にし、適時適切な監査・監督を実施します。

内部監査については、各部門および各事業所における業務に関して監査を行う組織として社長直轄の「内部監査室」を設置し、会社が定める規定などの遵守状況や業務全般に関して妥当性、有効性、適法性について監査し、取締役社長及び監査等委員会に報告するとともに、随時関係部門に勧告、是正指導等を実施します。

### ■社外取締役の活動状況並びに出席状況（2023年度）

	出席状況		主な活動状況（期待される役割に関して行った職務の概要）
	上段：取締役会	下段：監査等委員会	
近藤 勇	16/16	100.0%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に対する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、経営に対する監督機能を果たしている。
	14/14	100.0%	
金子 直幹	12/16	75.0%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に対する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、経営に対する監督機能を果たしている。
	8/14	57.1%	
久保田 康史	15/16	93.8%	法律専門家としての経験と見識に基づき、特に経営全般・ガバナンス強化のための有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、経営に対する監督機能を果たしている。
	14/14	100.0%	
安井 玄一郎	13/16	81.3%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に対する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、経営に対する監督機能を果たしている。
	12/14	85.7%	
馬場 貞仁	14/16	87.5%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に対する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、経営に対する監督機能を果たしている。
	12/14	85.7%	

### ■コンプライアンス委員会

業務運営の適正化を目的として、代表取締役社長を委員長、コンプライアンス推進本部長を副委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置しています（詳細は次ページ参照）。

# コンプライアンス・リスク管理

サンックスグループは、サステナブルな社会の実現に寄与する事業活動を行っている立場から、コンプライアンスを健全な企業経営の根幹と位置づけています。組織全体にコンプライアンスの意識を浸透させるため、新入社員研修カリキュラムにコンプライアンスに関する講義を含むほか、各事業部門の事業内容に関連する法令よりも厳しい基準となる「自主行動基準」を定め、その遵守に努めています。

## ■コンプライアンス遵守体制

### ■コンプライアンス委員会

サンックスグループでは業務運営の適正化を目的として、代表取締役社長を委員長、コンプライアンス推進本部長を副委員長、各事業部門主管部長およびその他選任委員を構成メンバーとする「コンプライアンス委員会」を設置しています。

2006年度以降、77回開催しています(2024年3月末時点)。また、当該委員会は必要に応じて取締役会や内部統制委員会と連携を図っています。

### コンプライアンス委員会構成メンバー (2024年3月末現在)

委員長：代表取締役社長

副委員長：コンプライアンス推進本部長

委員：S E・H S・E S事業統括本部長、P V E事業統括本部長、管理本部長、法務部長、品質製品管理部長、S E事業本部長、H S事業本部長、E S事業本部長、環境資源開発事業本部長、委員長による選任委員

## ■情報セキュリティ

### 個人情報保護

サンックスグループは、創業以来、多数の個人のお客様とお取引させていただいています。そのため、当社グループは個人情報を適切に管理することを社会的責務と考え、「情報セキュリティ方針」とは別に「個人情報保護方針」を定め、役員・従業員および関係者に周知徹底を図り、個人情報の保護に努めています。

個人情報については、当社グループが行う事業の範囲内で収集目的を明確に定め、その目的達成に必要な限度において適法かつ公正な手段によって行うものとし、管理する個人情報は、当社グループにおいて処理されるすべての個人情報を対象としています。

### データセンターの活用やペーパーレス化による物理的対策

B C P\*の観点から、基幹業務に影響する各種サーバーを外部のデータセンターに移設し、ランサムウェアへの感染も想定して、定期的にオフライン環境でのデータバックアップを実施しております。加えて、2024年1月に施行された改正電子帳簿保存法に基づき、可能な限りペーパーレス化を推進しています。

\*BCP…Business Continuity Plan(事業継続計画)のこと。大規模な災害や感染症を想定したのですが、当社グループではサイバー攻撃を想定したシステムやネットワークの早期復旧など、IT観点でのBCP対策も進めています。

### 脆弱性診断に基づく技術的対策

外部の専門家によるアタックサーフェス\*を対象とした脆弱性診断を実施し、当社グループの情報インフラ・ネットワークに致命的な脆弱性がないことを確認しています。また、従前より運用監視ルールに基づき、不正なアクセスを常時監視・遮断しています。併せて、2024年4月に施行された改正個人情報保護法に基づき、ウェブスキミング等の不正な手段により個人情報が盗まれるケースを想定し、さらにサイバーセキュリティ対策を強化していきます。

\*アタックサーフェス…サイバー攻撃される可能性のある端末や機器などのこと。



### 管理体制の構築ならびに従業員教育による人的対策

個人情報の管理については、個人情報保護方針の実施および運用に関する責任と権限をもつ個人情報保護統括管理者を設置し、その指揮のもとに、各事業本部に個人情報取扱管理者、各事業所に個人情報保護取扱責任者を配置することで、網羅的に管理を行う体制を構築しています。

併せて、手口が巧妙化し、被害件数も増加傾向にあるサイバー攻撃を踏まえ、全ての従業員に対する継続的な教育の実施が必要不可欠であると考え、サンックスグループでは入社時のみならず入社後においても継続的なオンライン研修コンテンツを用意し、情報セキュリティに関するリテラシーを向上させています。

## ■ 通報制度

### ■ 内部通報制度

不法行為などの早期発見と是正を図り、コンプライアンス経営の強化に資することを目的として、内部通報制度を設けています。この制度は、サニックスグループ従業員に限らず、従業員の家族や建設業に係る協力会社など、幅広く利用することができます。2023年度は、国内外グループ全体で11件の通報を受け付け、すべて然るべき手順で、解決を図っています。なお、財務諸表に影響を与えるような内容はありません。



建設業関係協力会社専用ページ (WEB) にも、相談窓口を設置しています。

## ■ 営業活動におけるコンプライアンスの具体的な取り組み

### ■ 自主行動基準

法令遵守はもとより、コンプライアンスに準拠した質の高いサービスの提供を目的として、事業部門ごとに、各事業内容に即した「自主行動基準」を策定し、各事業部門内で共有しています。なお、関連法令の改正などの社会情勢の変化に応じ当該自主行動基準を適宜改定しています。

### ■ コンプライアンス推進協議会



BtoCの事業を行う部門については、毎月営業店舗単位でコンプライアンス推進協議会を開催しています。営業活動に密接に関わる特定商取引に関する法律 (特定商取引法) に留まらず、自主行動基準やお客様満足度向上などをテーマに全職種で意見を出し合いコンプライアンス意識の向上や定着を図っています。



ご家庭向けサービスにおける取り組みについて、自主行動基準の一部を、ホームページに掲載。

### ■ 訪問販売員教育



▲訪問販売員教育指導者資格証

訪問販売を行うH S事業部門では、全事業所の所長および全営業・顧客管理職について、公益社団法人日本訪問販売協会の定める「J D S A 認定教育登録」を推進しています (2024年3月現在、241名が取得)。また、当登録制度の充実強化策として設けられている「訪問販売員教育指導者」を、社内に22名配置し (2024年3月末現在)、登録制度に係る教育の徹底および、教育レベルの維持を図っています。

〈J D S A 認定教育登録とは〉

販売員に対する教育を行い、その資質の向上を図ることを目的とする制度。公益社団法人日本訪問販売協会が定めた教育カリキュラムを履修し、試験に合格した販売員を登録するとともに、「J D S A 認定教育登録証」が交付される。

### J D S A 認定教育登録 当社教育カリキュラム

教育項目	カリキュラム	受講形態	備考
専門 当社の歴史と社会的役割 / 当業界に必要となる専門教育 (商品知識等)	会社の歴史・役割 (70分) 一般建築物 (140分)	一定期間に、各自、社内 のeラーニングにて、全カリ キュラムを受講した後、 テストを受け合格する。	テキストは当社で作成 し、公益社団法人日本訪 問販売協会の審査を受け たものを使用。
	シロアリ (70分×2) 基礎補修 (70分)		
	換気関連 (70分×2) 遮熱・断熱 (70分)		
標準 訪問販売員の心得 / 遵守すべき 法規制 / 関連通報の要点	特定商取引法・割賦販売法等 (360分)	当社にて集合研修。	

## ■サプライヤー（持続性のあるバリューチェーンの構築）

### ■ 安定的な調達に向けて

サニックスグループでは、サプライヤーにおける災害発生時や事故発生時、需給逼迫時などにおける調達リスクを軽減し、安定した調達を継続するために、国や地域のもつ固有のリスクや特徴などを加味した上で、

- ①品目ごとに設定した安全在庫数量の管理
- ②マルチサプライヤー化の推進
- ③代替品の検討
- ④物流ルートの把握

などを実施しています。

## ■BCP（事業継続計画）

サニックスグループでは、地震、風水害等の自然災害、火災などの緊急事態に遭遇した場合において、従業員とその家族の安全を確保しながら事業資産の被害を最小限に留めつつ、事業の継続あるいは早期復旧を図ることにより、お客様、お取引先様などからの信頼の維持、および会社の存続を図り、ひいては社会経済の発展に資することを目的に、事業継続計画を定めています。

### 〈サニックスグループの災害時における基本方針〉

- (1) 従業員とその家族の生命・安全の確保を最優先とする。
- (2) 事業へのダメージを極小化し速やかに業務の早期復旧を図る。
- (3) 顧客との信頼関係を第一とする行動をとる。
- (4) サニックスグループとして求められる社会的責務を遂行する。

定期的に各種取り組みを実施し、従業員の防災意識の向上を図るとともに、緊急事態への備えを強化しています。

### 〈取り組み例〉

- ・従業員に対する安否確認アプリの使用訓練
- ・災害時備蓄品の棚卸し
- ・各事業所の避難場所や緊急連絡先、避難経路の確認、更新
- ・従業員に対する防災に関する意識調査
- ・WEB社内報を活用した従業員への啓蒙活動

### 【安否確認アプリ使用訓練】

BCP対策本部からの安否確認（一斉通知）に対して、迅速に自身の安否報告ができるかを確認するものです。2023年度は、休日や多忙な勤務時間帯など、発信時間を変えて、4回実施しました。時間を問わず発生する災害を想定したものです。

### 〈訓練結果〉

発信日時	対象者数	安否報告率	
		当日	翌日まで
2023年6月15日(木) 9:00	1,983	84.2%	97.3%
2023年9月18日(月・祝) 10:00	1,978	51.4%	82.2%
2023年12月20日(水) 14:00	1,971	57.4%	72.9%
2024年2月18日(日) 10:00	1,973	50.8%	63.8%

### 【WEB社内報による啓蒙事例】

能登半島地震 令和6年 から学ぶ防災

新編工場長とBCP担当者に地震の様子をインタビュー

1月の能登半島地震を受けて、被災地従業員の体験談を共有するとともに、改めて地震対策を確認。

安否確認訓練のためもの！能登半島地震での迅速な対応をインタビュー！

新編工場 工場長

①地震が起きた時どのような状況でしたか？

1月19日午後4時頃、元旦ということもあり自宅でゆっくりと過ごしていましたが、就寝からのアラームと同時に大きな揺れを感じました。思い入らぬ揺れに驚き、

## ■製品等重大事故への対処

サニックスがお客様※に販売・提供した、製品（他メーカー製造のものを含む）や施工サービス等が原因で、重大な事故が発生した場合の対応について、「製品等重大事故対処規程」を定めています。

※消費生活用製品安全法で定められている一般消費者。

### 〈製品等重大事故対処 基本方針〉

- (1) 当社は、製品等重大事故において「お客様第一」を行動の基本方針とし、誠意ある対応に努める。
- (2) 製品等重大事故の原因が他者にある場合、事実を適正に扱い、当該他者の事故隠し、虚偽化もしくはそれにつながるような不正行為には加担・協力をしない。
- (3) お客様や第三者の人身に損害がなくとも「今後発生するかもしれない」というリスク認識の下で行動する。